



若者に選ばれる街に

福岡市から朝倉市に移住し、防災や地域交流活動をしている
一般社団法人「キャンプ」の代表理事として活躍中の多田隈宏美^{ただくまひろみ}(31才)さんと
中島ひできが市政の方向性について語り合いました。

◆朝倉市に移住したきっかけは？

中島議員(以下中島) 多田隈さんは「キャンプ」の代表として防災や地域交流活動をされていますが、そもそも朝倉市に移住し「キャンプ」の活動に取り組まれてきたきっかけは？

多田隈宏美さん(以下多田隈) 2017年7月九州北部豪雨発生後に、災害ボランティアとして朝倉市比良松付近の被災現場に入りました。その後、杷木寒水地区で活動するようになりましたが、当時寒水地区では民間ボランティアとして望月文(現在は平川文)さんが「杷木ベース」という活動拠点を開設し、孤軍奮闘の状況でした。そのような中で、望月文さんから活動の継続や発展の必要性を説かれ、「手伝って欲しい」という依頼があったことです。

◆移住されてきた人から見た朝倉市の課題は？

中島: 災害ボランティア活動の中から、移住という大変重い決断をされて、今なお発展的に地域活動をされている多田隈さんに心から敬意を表したいと思います。現在杷木地区を拠点に活動されている多田隈さんに、朝倉市の現状についてお尋ねするのですが、31才という若い多田隈さんから見た朝倉市の課題について、お話しいただけませんか。

多田隈: 朝倉市で生活している私が感じることは、人との交流、つまり人と人との「つながり」が非常に濃いことです。このことは大変大切なことだと思います。しかし、友人に移住を進めても結局は「やりたい仕事が無い」という理由で断られます。中島さんは政治家として、この現実をどのように考えていますか。



◆若者の流出に歯止めをかけることを市の戦略課題として、真正面から挑戦します。

中 島:朝倉の地で生を受け、学業や部活に精を出し、緑豊かな地域の中で学び、遊び、人生の進路を決めようとするとき、まず最初に考えることは、どのような仕事を選択するのかだと思います。若者の流出に歯止めがかからない最大の要因は、この地域に多様な仕事が圧倒的に少ないことだと考えます。多様な雇用の場を創り出していくことこそ急がなければなりません。同時にもう一つ大事なことは、子育て環境の徹底した充実にあると考えます。

多田隈:「若者の流出に歯止めをかける」方策の2本柱に「子育て環境の充実」と言われましたが、その方向性について、もう少し説明して下さい。

中 島:「子育て環境の充実」と言っても、多種多様の課題があります。課題に「あれも、これも」と同時並行的に取り組むことは不可能です。朝倉型の子育て支援をどこから始めていくのか。言い換えれば「朝倉型子育て環境の充実」の特色や個性をどの分野で出していくのか、が大切

なことだと考えています。「朝倉型子育て環境の充実」の個性を創り出していくために「個性あふれる幼児教育」の実現をまず目指します。地域愛着の心を育む教育や国際性を育む外国語教育のスタートを考えています。このことは「若者に選ばれる街に」の目標達成に大きく貢献すると思っています。

◆若者対策は究極の高齢者対策です。

多田隈:市の戦略課題を設定し、挑戦を続けていく中島さんの熱量が伝わりました。私は現在杷木地区で生活しています。朝倉市の中で一番人口が減少していますが、地域の中心部には、スーパー、医療機関、金融機関、高速バスや普通バスの発着所、個人商店、学校及び市役所の支所等の生活関連インフラがコンパクトに集中し、生活上の利便性はなんとか確保されています。中島さんの「若者対策」に大いに賛同しますが、一方で「高齢者対策の軽視」との批判が出るのではないですか。

中 島:私の提起している「若者対策」が「高齢者対策の軽視」になるとは思っていません。むしろ逆に「若者対策の推進」は「究極の高齢者対策」だと思っています。民間や行政の生活インフラは、今以上の人口減少が進めば、規模の縮小や撤退等が現実のものとなります。実際ある銀行の窓口業務は半減しています。仮にスーパーが無くなったときのことを想像して下さい。高齢者の方々の日々の生活を直撃するのは必至です。できるだけ早く「若者対策」に着手し、現在の生活インフラを維持しながら、全世代が健康で前向きな人生を送れる地域を目指していきたいと思っています。

本日の対談、ありがとうございました。多田隈さんの今後益々のご活躍期待しています。